

カナダの金融市場動向 Weekly Report

【2017年4月15日～2017年4月21日の推移】

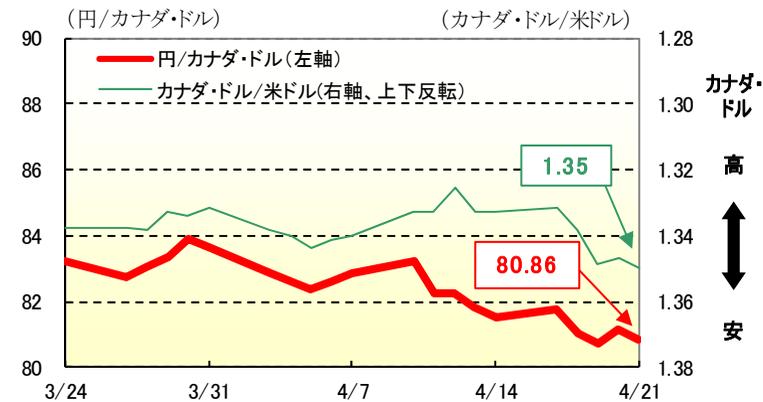
【1】先週の回顧

先週のカナダ・ドル円相場は下落し、カナダ5年国債利回りは低下しました。

北朝鮮情勢をめぐる懸念が高まったことに加え、原油価格が軟調に推移したことから、金利は低下し、カナダ・ドル円相場は下落しました。また、カナダのCPI（消費者物価指数）が市場予想を下回ったことも、カナダの金利低下およびカナダ・ドル円相場下落の材料となりました。

一方で、トランプ政権による税制改革への期待が高まったことは、金利の低下およびカナダ・ドル円相場の下落を抑える要因となりました。

【カナダ・ドル 為替推移】 (2017年3月24日～2017年4月21日)



※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。
(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

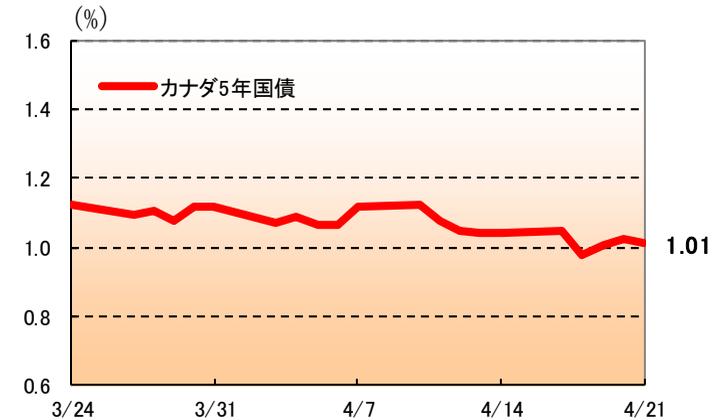
【2】今週の見通し

今週は、フランス大統領選挙第1回投票の結果を受けて、市場のリスク回避の流れがやや後退しそうです。今回の投票で親EU(欧州連合)派のマクロン氏と反EU派のルペン氏が5月7日の決選投票に進むこととなりましたが、世論調査ではマクロン氏圧勝との見方が強く、大統領選挙への警戒は後退しそうです。ただし、今週は北朝鮮の朝鮮人民軍創建記念日を迎え、地政学リスクが意識されることから、市場の警戒感が残存するとみています。また、トランプ政権の税制改革案も注目材料です。

カナダ国内については、経済環境の好転などを背景に当面は政策金利を据え置きつつも、次の政策金利の変更は利上げ方向とみています。世界的にも金融緩和は拡大から後退する流れとなっており、足元の市場の不透明感が後退すれば、カナダの金利上昇圧力が優勢になるとみています。今週はGDP(国内総生産)や小売売上高が発表予定です。

足元の原油価格はやや調整しているものの、産油国による生産調整の動きを背景に、当面は底堅く推移すると見込んでおり、カナダ・ドルの下支えになるとみられます。

【カナダ 金利推移】 (2017年3月24日～2017年4月21日)



(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託フリーダイヤル0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>